

・ちば県の気候特性

周辺環境と共生するには、まず、その地域の気候・風土を理解する事が大切です。

1 ちば県の気候

千葉県は、北海道や沖縄のように極端な気候特性はないものの、房総半島が南北に長く、黒潮が流れる太平洋と東京湾との海に囲まれ、内陸部には山々が連なり、地域によって環境特性が異なります。

また、都市部と郊外地の両面の特徴も持あわせ、言い換えれば“ミニ日本”的な性質を持っています。

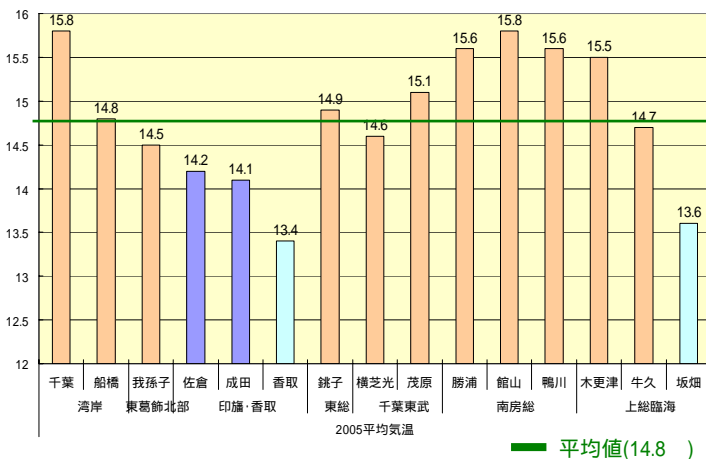
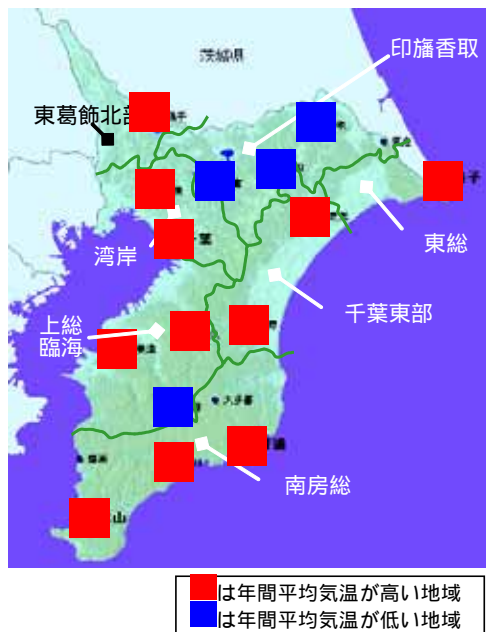
このような気候特性も地球温暖化の影響で変化してきています。

年平均気温（2005年）

各地域の年平均気温を比較すると、東京湾岸都心部の湾岸ゾーンと太平洋沿岸部の南房総ゾーンの年平均気温が高くなっています。

都心部では千葉、木更津が特に高く、太平洋沿岸部では館山、勝浦、鴨川が高い傾向があります。

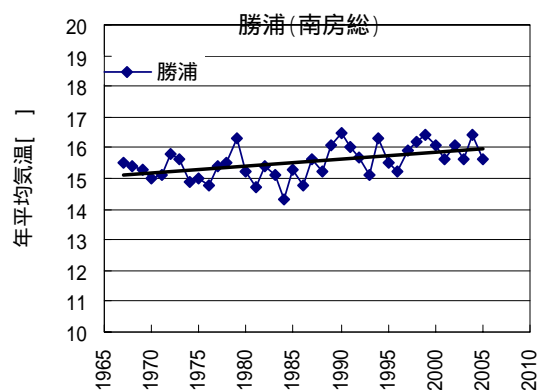
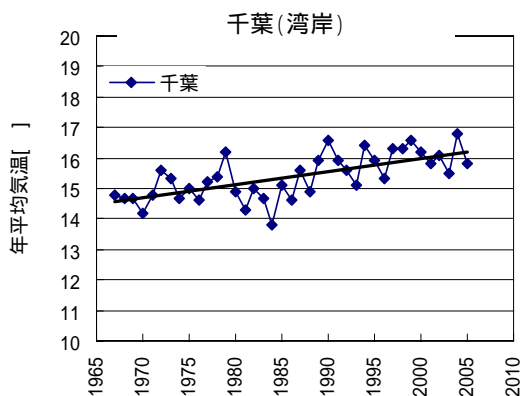
また、印旛・香取ゾーンの香取、上総臨海ゾーンの坂畑の年平均気温が低いのが特徴となっています。



年平均気温の経年変化

香取を除き、年平均気温は年々上昇しています。特に、船橋、木更津、千葉、我孫子などの都心部の上昇率が高く、20年間に1 程度の上昇傾向がみられます。

銚子や勝浦などの沿岸部では、20年間に0.5 程度の上昇傾向で、都心部の約2分の1の上昇率となっています。

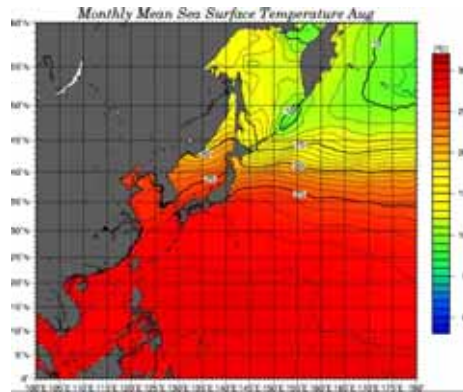


8月の日最高気温の平均（2005年）

8月の日最高気温の平均は、多くの地域で31前後になっています。

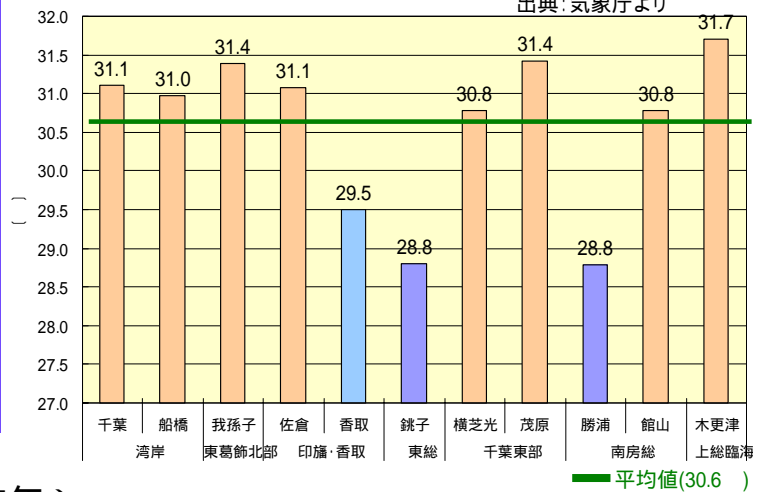
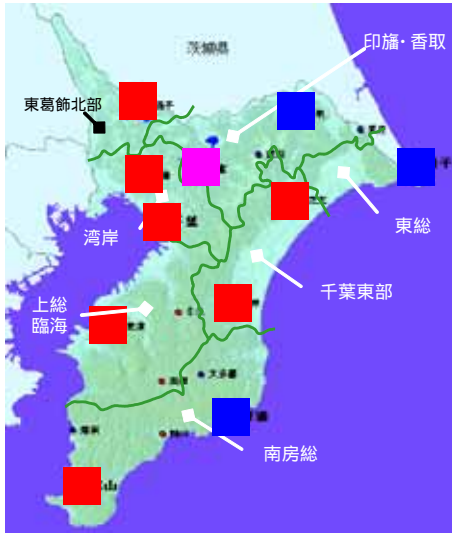
太平洋沿岸に位置する勝浦や銚子の8月の日最高気温の平均値は28.8と、他に比べ2以上低くなっています。

これは、黒潮の水面温度が25程度で、南方向からの風が冷やされて流れ込んでいるためと考えられます。



8月の海面水温度(1971～2000年の平均)

出典: 気象庁より

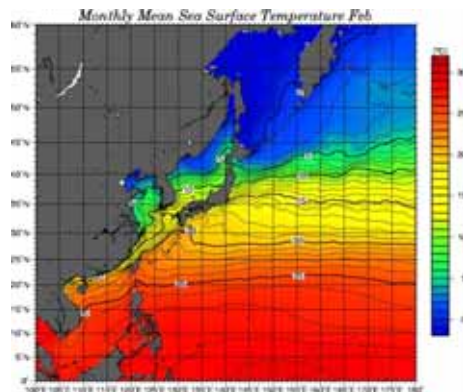


2月の日最低気温の平均（2005年）

2月の日最低気温の平均は、東京湾岸の都心の千葉や木更津、黒潮（暖流）の影響を受ける銚子、勝浦、館山の太平洋沿岸地域の都市の気温が高くなっています。

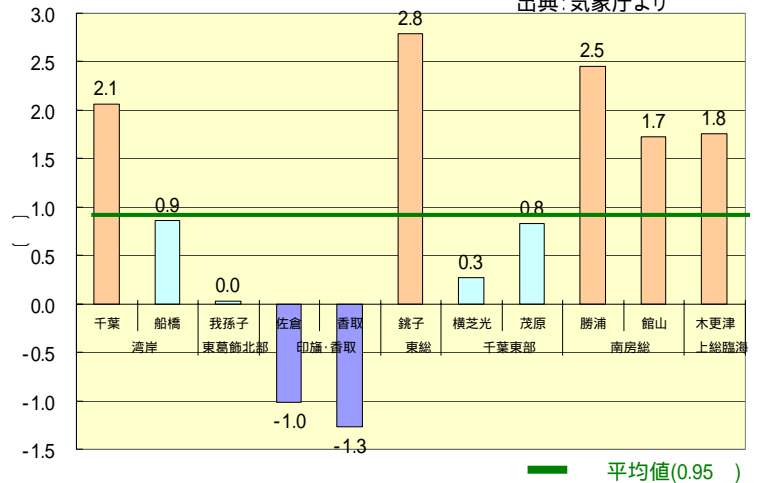
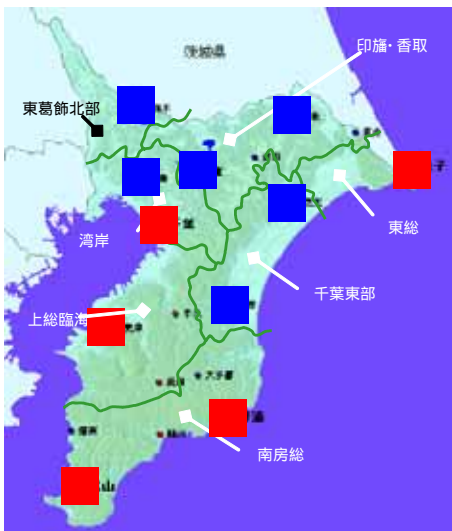
逆に、佐倉や香取など冬期に筑波おろしが吹く地域は、2月の日最低気温が低くなっています。

我孫子や横芝光も筑波おろしの影響で、気温が下がっていると考えられます。



2月の海面水温度(1971～2000年の平均)

出典: 気象庁より

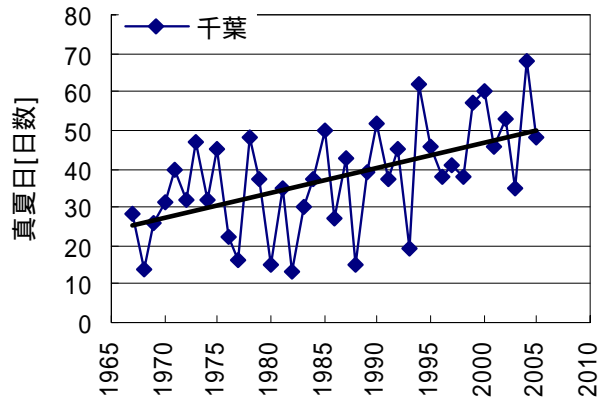
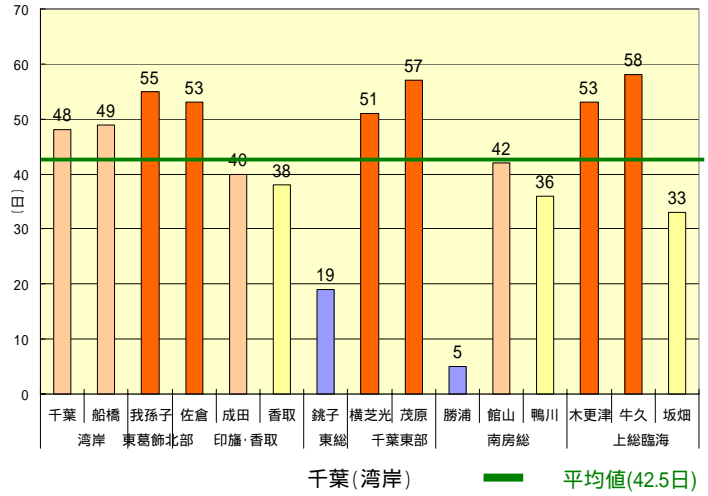
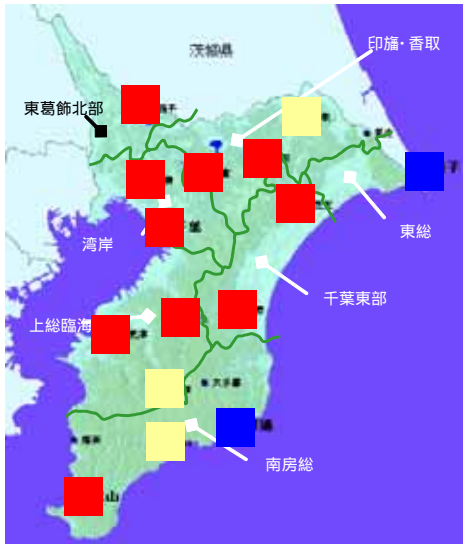


1 ちば県の気候

真夏日（1日の最高気温が摂氏30度以上になる日：2005年）

我孫子、茂原、牛久、横芝光、佐倉の内陸部の中小都市と木更津、船橋、千葉などの臨海部の大都市は、真夏日の日数が多く、年々増加しています。

勝浦や銚子の真夏日日数は少なく、太平洋からの海風が吹く地域の特徴と考えられます。

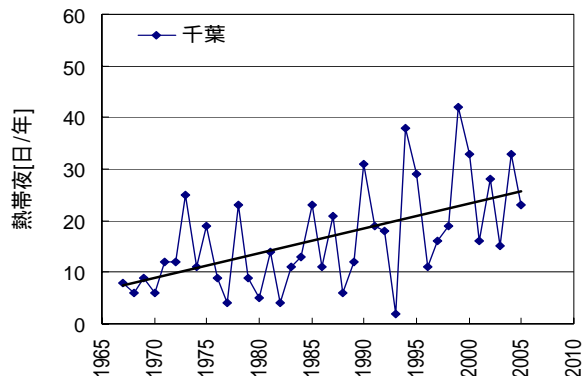
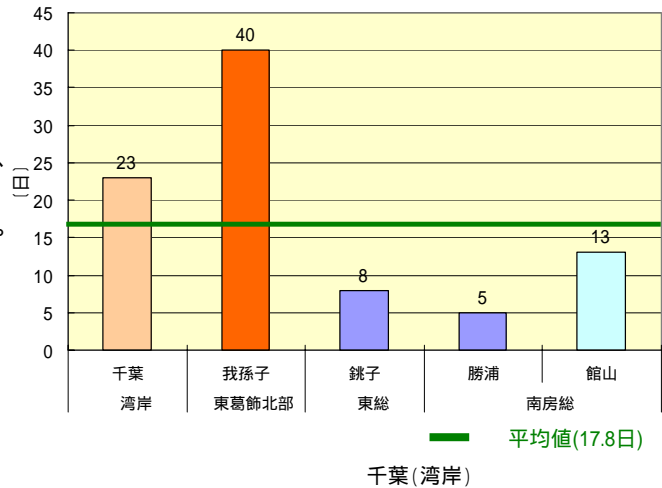


熱帯夜（夕方から翌日の朝までの最低気温が摂氏25度以上になる夜：2005年）

我孫子の熱帯夜の日数多く、経年変化をみると25年以上前から熱帯夜が40日を越えています。

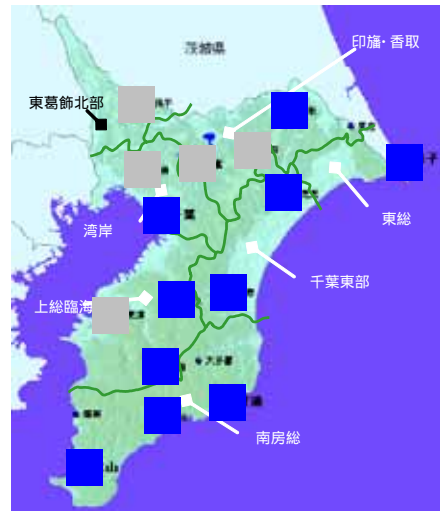
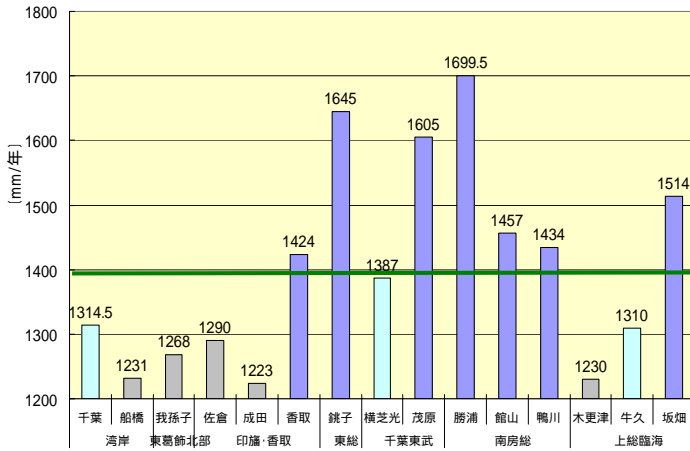
千葉、館山は、我孫子に比べ少ないものの、年々増加しています。

銚子や勝浦は熱帯夜日数が少ない地域です。



年間の降水量 (2005年)

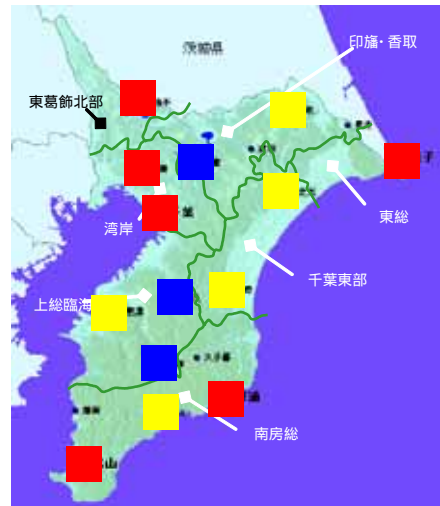
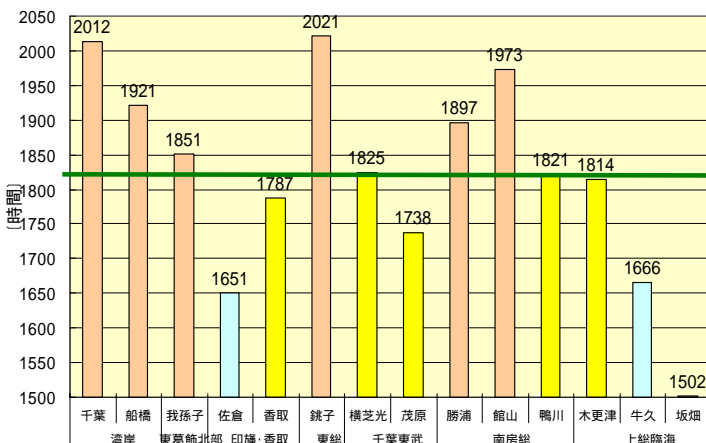
勝浦、銚子、館山などの太平洋沿岸部と、坂畑や茂原などの内陸部の年間降水量が多い傾向があります。



— 平均値(1402.1mm/年)

年間の日照時間 (2005年)

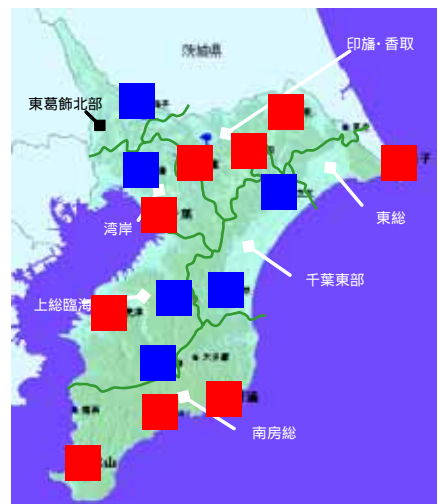
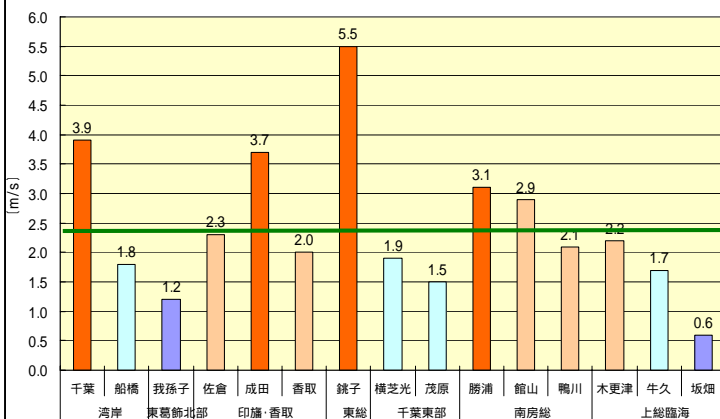
千葉、銚子、館山、勝浦などの太平洋沿岸部と臨海部の年間日照時間が多く、坂畑、牛久、佐倉などの内陸部の日照時間は他に比べ少ない傾向があります。



— 平均値(1820時間)

年間の平均風速 (2005年)

銚子や勝浦の太平洋沿岸部、湾岸地域の千葉で平均風速3m/秒以上を観測していますが、我孫子や坂畑などの内陸部は2m/秒を下回っています。



— 平均値(2.4m/秒)

2 ちば特有の気候の活かし方

(1) ~夏~

東京湾岸地域

県内で最も都市化された地域で、日照時間が長く、夏は日中は暑く熱帯夜も多い地域です。(P9 ~ P11参照)

都市に緑を増やして熱を貯めず、湾岸の風や水撒きで都市を冷やそう。太陽光や太陽熱を上手に利用しよう。

北総内陸地域

利根川流域から南に広がる地域で、夏は日中暑く、夜になっても熱帯夜となります。(P9 ~ P11参照)

街に緑を増やして熱を貯めず、断熱性の高い窓を作り、水辺の川風や水撒きで街を冷やそう。

房総山間地域

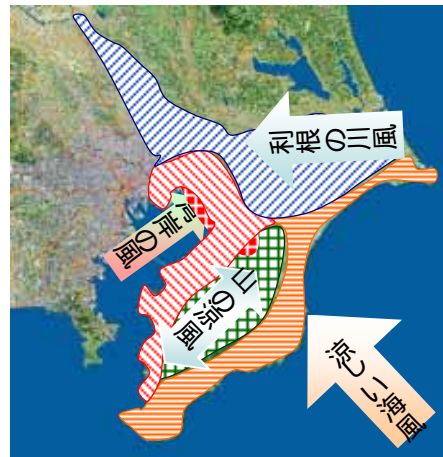
山間部は、日照時間が短く、風も弱いですが、周辺を豊かな緑で囲まれた地域です。(P12参照)

緑の木陰の下で、大きな窓から木立の光や涼風を取り込もう。

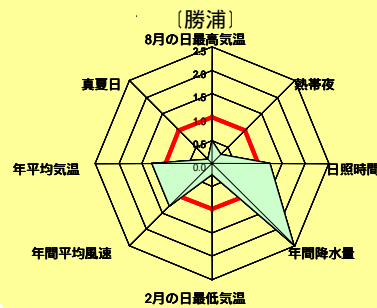
黒潮沿岸地域

太平洋沿岸に面した地域で、夏涼しく、熱帯夜もほとんどない地域です。(P9 ~ P11参照)

庇やすだれで日差しを遮り、生け垣や防風林の緑を植え、海風が運ぶ適度な涼気を取り込もう。



黒潮沿岸地域の特徴



黒潮からの海風が吹く太平洋沿岸地域は、夏は涼しく、冬は暖かいという理想的な気候で、雨水も豊富な地域です。この好条件を活かす建物計画が望まれます。



東京湾岸地域 幕張新都心



北総内陸地域 佐原 小野川 芸座船



房総山間地域 鴨川 千枚田



黒潮沿岸地域 九十九里浜

(2) ~ 冬 ~

東京湾岸地域

冬でも温暖な気候の地域です。(P9 ~ P11参照)

太陽の日差しから熱や光を取り込み、高効率の暖房設備でCO₂を削減しよう。

北総内陸地域

北からつくばおろしが吹き降ろすとても寒い地域です。(P9 ~ P11参照)

緑の防風林や生け垣でつくばおろしから家を守り、太陽熱を利用しながら断熱性の高い窓で熱を逃がさないようにしよう。

房総山間地域

山間部は、年間を通して日が短い地域です。

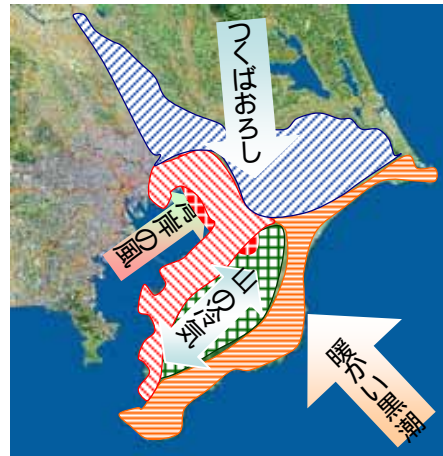
(P12参照)

太陽熱や太陽光を家に取り込み、暖炉やペレットストーブなどの森の資源を使った放射熱暖房で温まろう。

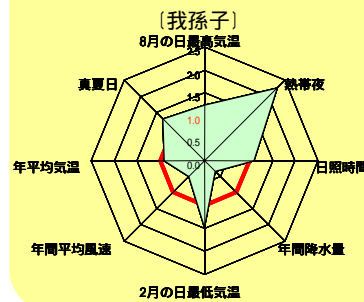
黒潮沿岸地域

冬でも暖かい気候の地域です。(P9 ~ P11参照)

緑の生け垣や防風林で海風を遮り、黒潮の運ぶ温かい新鮮な空気を取り入れながら、放射熱暖房で温まろう。



北総内陸地域の特徴



この地域は、冬は筑波山から吹き下ろす寒風(つくばおろし)にさらされ一方、夏は熟帯夜が多い地域です。夏場は、利根川の川風を取り入れ、冬場はいかにつくばおろしから守れるかを考えることが望まれます。

図中の値は指数で1.0が平均



東京湾岸地域 千葉駅前



北総内陸地域 利根川から望む筑波山



房総山間地域 九十九谷



黒潮沿岸地域 南房総市の花畑